

# 始めよう！ アクティブラーニング型授業 －教え合いの技法編－

佐藤慶太(香川大学 大学教育基盤センター)

## 今日の予定

1. 導入:アクティブ・ラーニングについて
2. アイスブレイク
3. 教え合いの技法紹介
  - ①グループワークを通じて
  - ②事例紹介を通じて
4. ふりかえりとまとめ



導入

アイスブレイク

技法紹介①

技法紹介②

まとめ

## この講座の達成目標

- ① アクティブ・ラーニングとはどのようなものか、説明することができる。
- ② 教え合いの技法を3つ以上挙げて、その手順を説明することができる。
- ③ 自らの授業に教え合いの技法を取り入れることができる。

## 1. 導入

### アクティブラーニングとは？

「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。」

(中央教育審議会答申 2012)

「一方向的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。」(溝上 2014)

そこで生じる認知プロセス・・・知覚・記憶・思考(論理的／批判的／創造的思考、推論、判断、意思決定、問題解決等)

## 1. 導入

### アクティブラーニングとは？



- ・アクティブラーニング ≠ activeなラーニング
- ・アクティブラーニング→操作的に定義された用語
- ・「アクティブラーニング」は「一方的な知識伝達型講義」を乗り越えるタイプの講義を指示する
- ・背景にあるのは、「教えるから学ぶへ」の転換。  
→「〈何を教えるか〉から〈何ができるようになるか〉」の転換。  
(中央教育審議会答申 2008)

## 1. 導入

### 大学教育でアクティブラーニングを導入する意義



「生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。」

(中央教育審議会答申 2012)

## 1. 導入

### 大学教育でアクティブラーニングを導入する意義



### 「検索型の知識基盤社会」の到来と「情報・知識リテラシー」の必要性(溝上慎一)

- ・「検索型の知識基盤社会」とは・・・

「今日、インターネットのグローバルな普及を前提に、私たちの知識の蓄積や流通のもっとも重要な基盤は書棚や図書館の書物からネット上のデータベースやアーカイブに移りつつある」(吉見 2011)

## 1. 導入

### 大学教育でアクティブラーニングを導入する意義



- ・「情報・知識リテラシー」とは・・・

1. 情報を受け手の知識社会に位置づけ、行動に影響を及ぼす、意味ある知識とする(情報の知識化)
2. 知識を身のまわりで起こっている社会や自然を理解するために、あるいは問題解決場面で活用する(知識の活用)
3. 他者に知識を伝えたり、他者のもつ知識とすり合わせて統合したりすること(知識の共有化・社会化)
4. 知識世界を整理・関連づけ・グルーピングすること(知識の組織化・マネジメント)

(溝上 2014)

# 1. 導入

大学教育でアクティブラーニングを導入する意義



## 「大学は民主主義を担う市民を育成する最後の砦」 (山口裕之)

「私がこの本で「レポートの書き方」として、「〈思う〉と書くな、根拠を示せ」、「反対意見を挙げよ」、「具体的な結論を示せ」と強調しているのは、単にレポートを書くためだけではなく、大学は民主主義社会を担う市民を育成する最後の砦だと信じているからです。民主主義とは、すべての国民が賢くあらねばならないという無茶苦茶を要求する制度です。その無茶苦茶を実現するために大学というものは存在しています。企業に有為な人材を育成するためではない。」(山口 2013)

(溝上 2014)

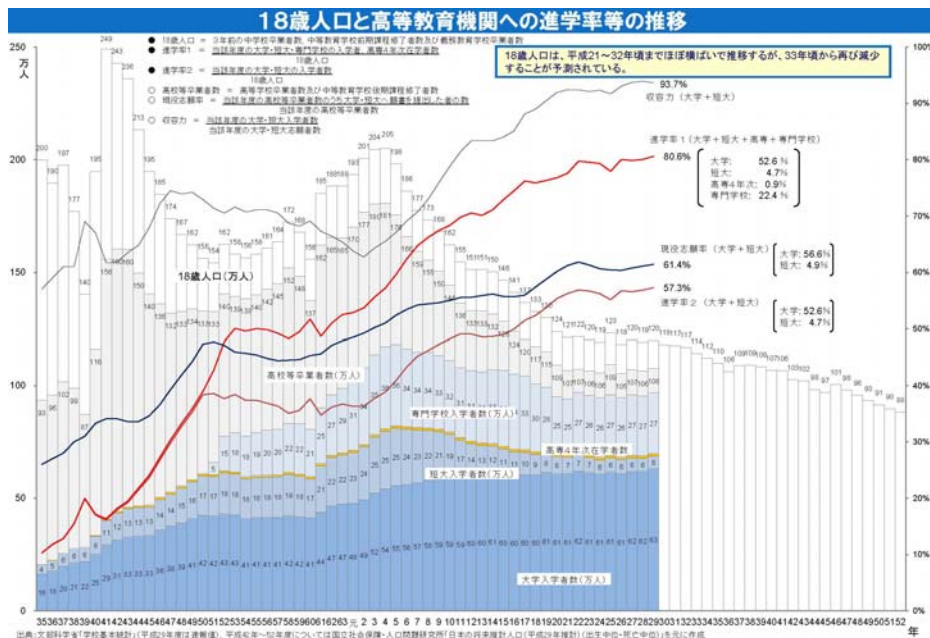
# 1. 導入

大学教育でアクティブラーニングを導入する意義



## 大学教育でアクティブラーニングを導入する意義 「アクティブラーニング」が注目を集めるようになった直接的な要因

高等教育の大衆化→  
学生の多様化、異なる動機、希薄な問題意識→  
結果としての教育の困難化



## 1. 導入

大学教育でアクティブラーニングを  
導入する意義



### 教育格差の問題

「ここでは、マイノリティ第一世代〔家庭内で初めて大学に進学するような学生〕の多くが、学問の世界で使われているような英語は話せない、という事実に触れておきたい。

かつて多くの学生は、大学で教育を受けた家庭の出身であり、そこでは学術英語が使われていた。〔中略〕

(つづく)

## 1. 導入

大学教育でアクティブラーニングを  
導入する意義



(つづく)しかし、今は教員が日常的に学問的な会話で使っている用語が、外国語もしくは風変わりな方言にしか聞こえないような学生と、いかにコミュニケーションをとるかを、教員は学ばなければならない。〔中略〕教員は、学生がこれらのことを「自分自身で」理解できて当然だろうと考えてはいけないのである。

それを「自分自身で」成し遂げた学生などいないのが真実だ。つまり、ある学生は恵まれた生育歴や教育歴のおかげで、その知識をすでに持って大学に来ている。しかし、今、授業に来ている学生の多くは、そうした恵まれた過去を持ち合わせてない。(つづく)

## 1. 導入

大学教育でアクティブラーニングを  
導入する意義



(つづく) 課題の内容を彼ら／彼女らにとって漠然としたままにして、この現実への対応を怠ったり、教員が使っている学術用語の意味説明を怠るなら、親が大学教育を受けている家庭に育ったり、予備校に通った経歴を持つ恵まれた学生をさらに有利に扱うことになる。このように学生が多様であるにもかかわらず、あたかもすべての学生が同じ地点から出発しているように見せかけるのは、教室内の平等を確保していないことになる」(スティーブンス&レビ 2014)

「何とんでも、第一世代の学生は、教育とは具体的な知識を吸収することであると考えがちである」(同上)

## 1. 導入

協同学習 (Cooperative Learning)



仲間と共有した学習目標を達成するためにペアもしくは小グループで一緒に学ぶこと。

協同学習の特徴

- ・教員の意図的な構造化に基づいていること
- ・「共に活動する」要素が入っていること
- ・目的のために意味のある活動であること

(バークレイほか、2009)

## 1. 導入

協同学習にとって特に重要な要素



### →「肯定的相互依存」と「個人の2つの責任」(安永 2015)

#### 肯定的相互依存

:協同学習では、グループの学習目標を達成するために、基本的な信頼関係に基づき、各自のもつ力を最大限に出し合い、仲間同士が互いに依存し合うことを求めている。目標に近づくという意味で肯定的であり、目標達成の障害となれば否定的な相互依存となる。

#### 個人の2つの責任

:学生1人ひとりに2つの責任がある。1つは自分の学びに対する責任であり、1つは仲間の学びに対する責任である。仲間が理解できていなければ自分の支援が足りなかったと反省し、積極的に支援することが求められる。

## 1. 導入

協同学習によってもたらされる恩恵



- 学習意欲が向上する。その結果、学業成績が向上する。
- 過去の学習成績のレベルや個人の学習の必要性に関係なく、学習へ積極的に係わるようになる。
- 自分の学習に対する責任感が増大する。
- 主体的に課題に取り組んでいる時間が増加する。
- 協調的スキルが向上する。
- 様々な見方を認めたり、考えたりする能力が向上する。

(参考:ジェイコブズほか 2002)

## 1. 導入

協同学習によってもたらされる恩恵



- ・知識の定着を促すだけではない。
  - ・汎用的能力の育成にも効果的(小方 2008など)。
- 「論理的に文章を書く力」  
「人にわかりやすく話す力」  
「ものごとを分析的・批判的に考える力」  
「問題をみつけ、解決方法を考える力」  
「幅広い知識、もののみかた」

## 3. 教え合いの技法紹介①



### 教え合いの技法の特徴

- ・仲間に説明できるように、学習内容をしっかり理解しようとする努力によって、自分自身の学習が向上する。
- ・授業内容をまとめ、明確にし、自分で話すことによって、記憶の定着が確かなものとなる。
- ・自分の活動が仲間の成功に直接影響するので、協調性が向上する。
- ・それぞれの学生が責任をもって取り組まないと成立しないので、手が抜けにくい。



### 3. 教え合いの技法紹介①



| 技法の種類         | 学生の活動  | 有用性   |
|---------------|--|---|
| ジグソー学習        | ある話題について知識を学び、他社にその知識を教える。                           | ある知識を他者に教えらるるまで深く学ばせることができる。                                |
| フィッシュボウル      | 同心円を作り、内側の学生があるトピックについて話し合いを行い、外側の学生はその話し合いを聞き、観察する。 | 話し合いのグループプロセスを真似る、または観察する機会を学生に与える。                         |
| テスト・テイキング・チーム | グループで試験勉強をし、一人一人が試験を受けた後、同じグループで再度試験を受ける。            | 学生自身による授業等の内容に対する理解度を調べ、理解の向上を図りながら、学生同士でお互いに試験を受けるコツを教え合う。 |
| ノート・テイキング・ペア  | パートナー同士でそれぞれがとったノートを見せ合い、よりよいノートを作る。                 | 聞き逃した情報の取得、聞き間違えた情報の訂正などを行い、良いノートづくりのきっかけを与える。              |
| ラーニング・セル      | 課題について自ら考えた質問をパートナーに出し、お互いに小テストを行う。                  | 授業の内容についてより積極的に考え、パートナー同士でお互いに励まし合うことによって、より深い理解に到達する。      |
| ロールプレイ        | 自分と異なる人物を想定し、ある場面でその人物の役割を演じる。                       | 「体験を通しての学び」を手助けする創造的な活動ができる。                                |

出所: バークレイ(2009)

### 3. 教え合いの技法紹介①



ジグソー学習とは？

エリオット・アロンソン(1932ー)  
が開発したグループワークの手法。



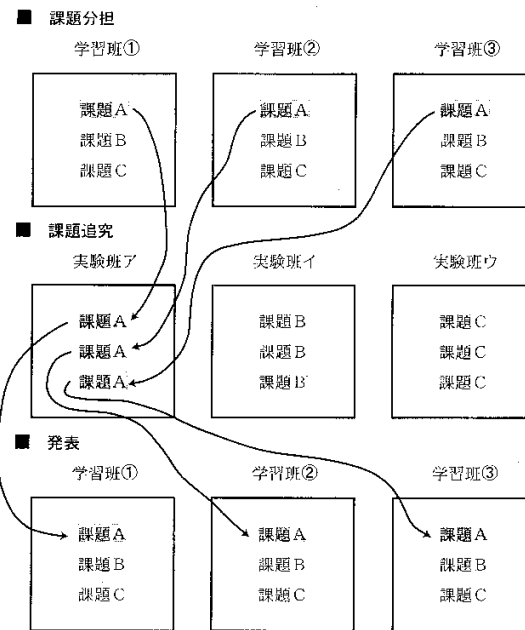
- ・学校内での人種差別問題の解消が目的
- ・最初の実験は小学生を対象に行われた
- ・仲間意識、愛校心、自尊心、学業成績の向上に資するというデータがある(アロンソンの研究)

### 3. 教え合いの技法紹介①



手順

- 1) クラスでグループ分けをする
- 2) 課題を分割し、分担可能にする
- 3) 教材を一人一人に分担する  
＝メンバーそれぞれが別の課題をうけとる
- 4) カウンターパートグループ(同じ課題をうけとった生徒からなるグループ: 調査班or実験班)を作る
- 5) もとのグループで教えあわせる。



### 3. 教え合いの技法紹介①



#### ジグソー学習体験

これから、ジグソー学習をつかって、以下の3つの「教え合いの技法」について学びます。

- ・ノート・テイキング・ペア
- ・ロール・プレイ
- ・テスト・テイキング・チーム

24

### 3. 教え合いの技法紹介①



#### 手順

- ①配布された資料を読む(5分)  
(メンバーによって資料が異なります)
- ②資料に書かれてあるアルファベットの場所に移動する。そこで、同じ資料を読んでいる人と出会う。
- ③同じ資料を読んでいる人とともに、資料にある技法のポイントを理解し、3分間で説明できるように、まとめる。時間があれば、どのような活用法があるか、一緒に考える(10分)。

### 3. 教え合いの技法紹介①



#### 手順

- ④資料についてしっかり理解したうえで、もとのグループに移動する。

各自が、割り当てられた技法の要点を、他のメンバーに説明します。各メンバーが、この作業を順番に行う。(10分)1つのグループに、同じ資料を持った人が2人いる場合は、どちらかが説明する。

- ⑤3つの技法の説明がおわり、全員がジグソーを含めて計4つの技法を理解できたことになる(はず)。

### 3. 教え合いの技法紹介①



#### 注意

資料とは別に、技法の名称が書かれたノートを配布しています。

自分が担当する技法のノートは、内容をまとめる際に使ってください。

残りの二つの技法のノートは、ほかのメンバーの説明を聴く際、メモを取るために使ってください。

### 3. 教え合いの技法紹介①



#### 実践事例紹介

- ・「倫理学」(学生数72人)  
「ロールズの正義論」
- ・「教養ゼミナール」(学生数28)  
「朝青龍引退」についてレポートを書く  
「成人の日50年史」を作成する



### 3. 教え合いの技法紹介①



#### 学生に対する事後アンケートから

- 自分が説明しないといけないので、人の三倍以上は理解しないと、とがんばりました。いつもより理解しようという意欲があがったように思います。
- 最初のグループ[カウンターパートグループ]でさぼっていたら、次のグループに迷惑をかけるから、サボれないとおもった。

### 3. 教え合いの技法紹介①



- [発表の時間で]A、B、Cそれぞれ順番にではなくて、好きな順がよかったです。Cの話す時間が5分もなかった。
- [発表の時間で]時間(書き写す)が足りなかったです。また他の[=自分がもらったのと別の]資料ももらえるとうれしいです。

### 4. 教え合いの技法紹介②



#### ラーニングセル

#### 手順

1. 読書課題や学習活動で取り上げた重要なポイントについて、質問とその答えを用意させる。
2. 学生をペア(学生AとB)にする。
3. 質疑応答の手順を説明する。
4. 学生AがBに一つ目の質問をし、Bがそれに答える。  
AはBが正答できるまで助言や訂正を行う。
5. AとBの役割を交代する。



## 4. 教え合いの技法紹介②



事例:

全学共通(高学年向け教養科目)「ラテン語I」

受講生数:9人(2回生以上)

方法:授業で取り扱った文法項目に関する復習問題を作成させる。ラテン語→日本語、日本語→ラテン語の両方の問題を作ること、15分ぐらいで解けるような問題を作ること、の2点を事前に指示した。

## 4. 教え合いの技法紹介②



実際の作業

- ・7回目の授業の後半30分で問題作成。  
いったん教員に提出(間違いがないかチェック)。  
時間内に完成しなかった学生は、後日提出。
  - ・8回目の授業の後半30分で、問題の修正、実施、答え合わせを行う。
- (第14回、15回にも同じようにラーニング・セルを実施。  
この授業では試験は行わず、ラーニング・セルで作成したテストの完成度で、成績をつけた)

## 4. 教え合いの技法紹介②



学生の反応

- ・ラーニングセルは、交流しながらお互い分からないところを理解するきっかけになるので、面白いです。
- ・ラーニングセルは、自分が分からないところの復習になるし、ペアの人と一緒に勉強でき楽しかったです。
- ・作り出したら楽しくなるけど、人の作ったのを解くのはすごく難しく、時間があっという間に過ぎてしまいました。

## 4. 教え合いの技法紹介②



フィッシュボウル(一般的な方法)

手順

1. まず学生の小さなグループ(普通は3人から5人)に輪になるように指示し、残りの学生はそのグループを囲む、大きな輪をつくるように指示します。
2. 学生に次のガイドラインを与えます。内側の学生のみが話せます。外側の学生は観察者として内側のグループで展開する話し合いの内容と展開過程についてメモを取らせます。外側の観察者は内側の話し合いには参加できませんが、この話し合いの終了後、引き続き行われる全体での話し合いで気になる点などを述べるすることができます。

## 4. 教え合いの技法紹介②



### フィッシュボウル(一般的な方法)

#### 手順

- 次に内側の学生に対して話し合いのテーマを与えます。
- 話し合いの終了後、内側・外側の学生関係なく、学生全員で話し合いを行います。そこでは、内側の話し合いで取り上げられた重要な点や気になった点、話し合いがグループの中でどのように進化したかについて取り上げるように指示します。

## 4. 教え合いの技法紹介②



#### 事例

全学共通(学問基礎科目)「哲学A」

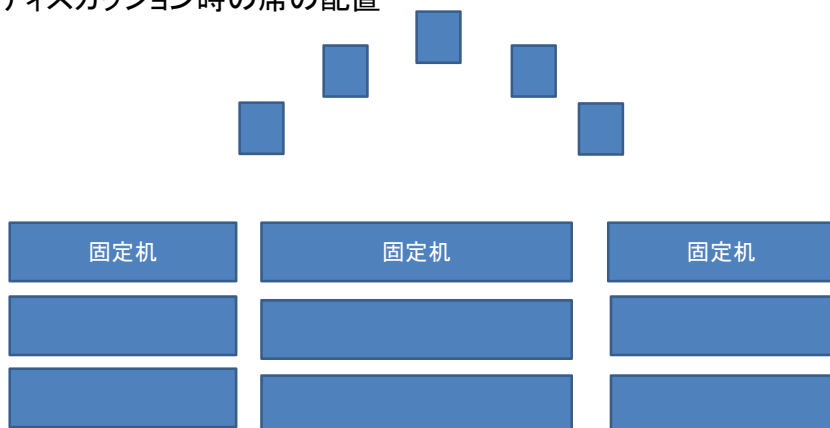
受講生:88名

方法:この授業では、毎回授業の最後に、その日に取り扱った哲学者の学説に関する小レポート課題を出している(たとえば、プラトンについての講義をおこなったあと、「美には客観的な基準があるかどうか」という課題を出す)。第12回、13回目の授業で、小レポート課題を出すさい、「次回の授業で、前に出てきて議論してもよいか」という質問も行なった(資料参照)。これにもとづいて論者を選び、第13回、第14回目の授業の前半30分を使い、5人によるディスカッション(のこりの学生はそれを聴く)を行なった。終了後、ディスカッションについてのコメントをシートに書くように指示した。

## 4. 教え合いの技法紹介②



### ディスカッション時の席の配置



## 4. 教え合いの技法紹介②



### 学生の反応(ディスカッションに参加した学生)

- ・実際にやってみて、やはり生の意見をきくこと、そして、それから考えることは読んで考えるよりも理解しやすいし、なによりおもしろいです。聞けば補足を皆さん考えて伝えてくれたので、そこらへんが読むことよりも深い思考ができた理由だと思います。
- ・自分の考えをまとめながら話すということがとても難しかった。他の人の考えを聞いて、なるほどと思ったところや、突き詰めると面白いところが出てくるので楽しかった。
- ・最初の自分の意見はなかなか変えられないと思った。どうしても新しい意見を作り出すまでの時間がなかったので、時間はもっとほしい。人と本気で話せた(つもり)ことがとても面白かったが、議論するには意見が少ない。少人数グループワークを全体でやって、チームごとに意見を戦わせるとか、人数をもっと増やす工夫をすればもっと楽しくなると思う。

## 4. 教え合いの技法紹介②



- 学生の反応(ディスカッションに参加していない学生)
- ・改善してほしい点→椅子の並び方をもっと外に広げてほしい(顔が見えるように)。先生にも参加していただきたい。
  - ・...ディスカッションでは、相手の意見を聞いてから瞬時にたくさんのことを頭で考え、反応しなければならないので、自分の意見にきちんとした根拠があることが必要になってくることに気付きました。
  - ・議論のテーマが「人と獣の違いは何か？」から「人間は特異な存在者か？」「人間と動物が根本的に違うところは何か？」と次々に移動していったが、細かくテーマを動かすことで、発言が増え、盛り上がるのが分かった。

40

## 5. ふりかえりとまとめ



今日学んだ「教え合いの技法」を、あなたの担当する授業に取り入れてみませんか。  
取り入れるとしたら、どのようなことが可能でしょうか。グループで意見交換をしてください。



### 参考文献

- エリザベス・バークレイほか(安永悟監訳)(2009)『協同学習の技法』ナカニシヤ出版。  
中央教育審議会(2012)「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(答申)」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm)  
中央教育審議会(2008)「学士課程教育の構築に向けて(答申)」  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm)  
溝上慎一(2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂。  
吉見俊哉(2012)『大学とは何か』岩波書店。  
山口裕之(2013)『コピペと言われないレポートの書き方教室』新曜社。  
安永悟(2015)「協同による活動性の高い授業づくりー深い変化成長を実感できる授業をめざして」松下佳代編『ディープ・アクティブラーニングー』勁草書房。  
ジョージ・ジェイコブズほか(関田一彦監訳)(2006)『先生のためのアイディアブックー協同学習の基本原則とテクニック』ナカニシヤ出版。  
小方直幸(2008)「学生のエンゲージメントと大学教育のアウトカム」日本高等教育学会編『高等教育研究』第11集、玉川大学出版部。  
エリオット・アロンソン(松山安雄訳)(1989)『ジグソー学級』原書房  
筒井昌博(1999)『ジグソー学習入門ー驚異の効果を授業に入れる24例』明治図書出版  
Elliot Aronson & Shelley Patnoe, *Cooperation in the Classroom. The Jigsaw Method*, London 2011(1978年に出版された“The Jigsaw Classroom”の改訂版)

どうもありがとうございました。

不明な点等あれば、メールでお問い合わせください。

stk@cc.kagawa-u.ac.jp



導入

アイスブレイク

技法紹介①

技法紹介②

まとめ